

## 平成 26 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	パイプハウスを用いたねぎの冬期貯蔵法		
[要約] ねぎは、パイプハウスを用いて気温 20℃を上限に側窓を開閉することで 1 月下旬まで貯蔵できる。3 月中旬まで貯蔵する場合は、作溝して伏せこみ、べたがけをする必要がある。					
キーワード	無加温	貯蔵	出荷期間拡大	県北農業研究所 園芸研究室	

### 1 背景とねらい

県北地域においては、ねぎの作付けが拡大する中で、冬期間に直売所等でねぎを販売するために、休閑期のパイプハウスを用いた簡易な貯蔵方法の確立が求められている。

【平成 23 年試験研究を要望された課題「県北沿岸地域におけるネギの長期出荷体系の確立」(中央農業改良普及センター(久慈農業改良普及センター))】

### 2 成果の内容

- (1) ねぎを貯蔵する場合、ハウス内にねぎを立てて、ハウス内気温 20℃を上限に側窓を開閉することで 1 月下旬まで貯蔵できる。(図 1~2)
- (2) 3 月中旬まで貯蔵する場合は、作溝して伏せ込み、べたがけをする必要がある。(図 1~2)
- (3) 「関羽一本太」は、供試した他の 3 品種に比べ、腐敗及び抽苔が少なく貯蔵性に優れている。(図 3)

### 3 成果活用上の留意事項

- (1) 貯蔵したねぎは、調整後の葉数が 3 枚以上、軟白長が 30cm 以上、腐敗や抽苔がないことの 3 点を備えていることを目標とした。
- (2) 使用したハウスは、軒高 1.9m、広さ 200 m<sup>2</sup>のパイプハウスを用い、側窓の巻き上げ開閉をそれぞれ気温 4℃、12℃、20℃を上限として自動管理とした。
- (3) 作溝して伏せ込む場合は、深さ 30cm 程度の溝とし、べたがけにはパスライトを用いた。作溝しない場合は、束ねたねぎに包装ネット(商品名: マキマキ)を巻き、地面に立てておいた。
- (4) 夏扇パワー等、抽台しやすい品種では 3 月中旬までの貯蔵は困難である。(図 3)

### 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者 県北地域、農業普及員及び営農指導員
- (2) 期待する活用効果 ねぎの計画的な出荷が可能となる。

### 5 当該事項に係る試験研究課題

(H24-12-2000) 青果用夏どりおよび冬どりハウス栽培法の確立 [H24~26 県単]

### 6 研究担当者

長嶺達也

### 7 参考資料・文献

- (1) 「ネギのハウス貯蔵による 1、2 月出荷」、秋田県農業試験場、東北農業研究第 48 号、1995 年

8 試験成績の概要 (具体的なデータ)

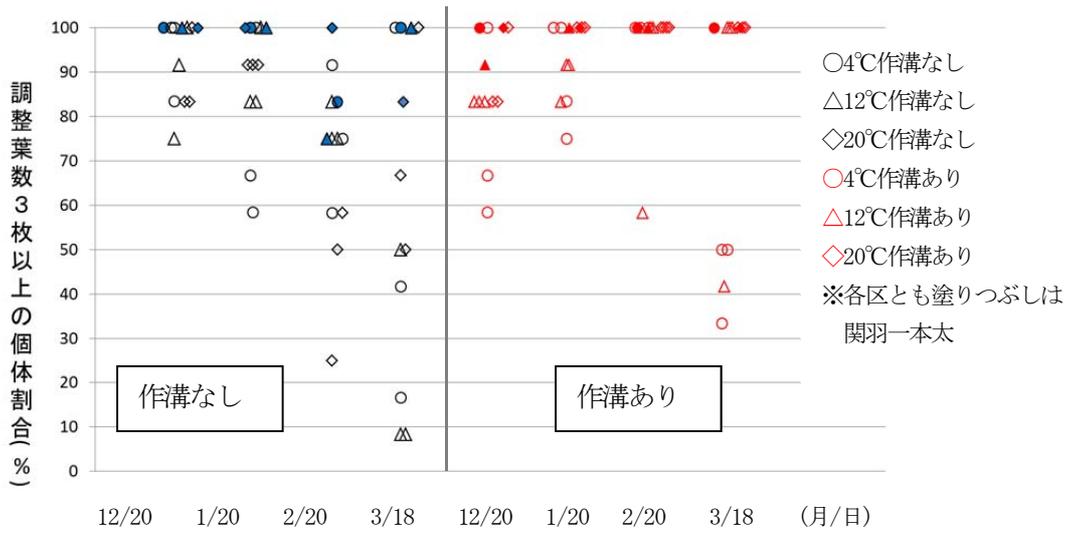


図1 温度設定による調製葉数の違い(作溝なし・あり)

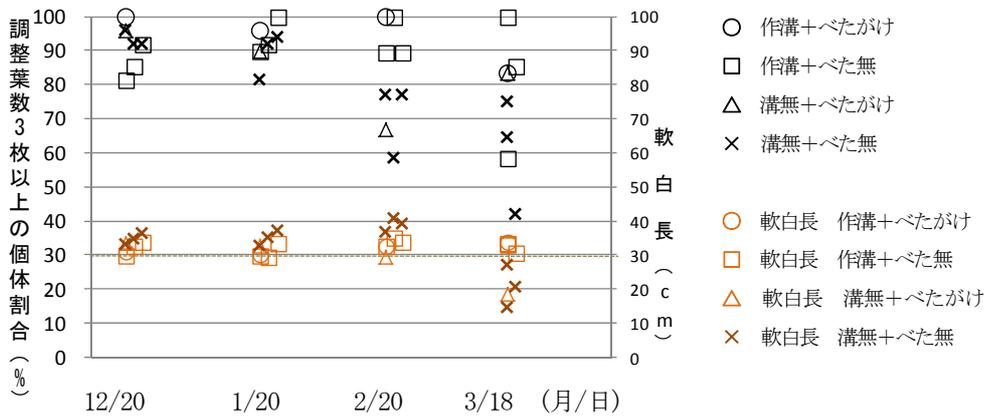


図2 べたがけの有無による調製葉数・作溝の有無による軟白長の違い

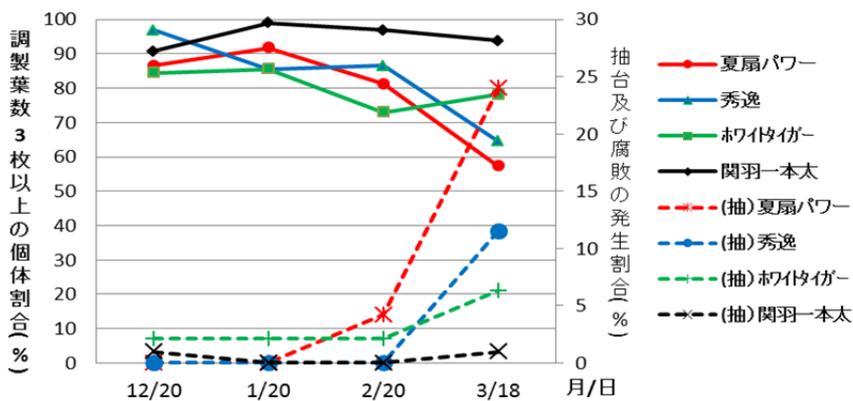


図3 品種による調製葉数・抽台及び腐敗の発生割合

注1 供試条件

- ・貯蔵に用いたねぎは、平成25年5月23日定植し、11月20日に掘り上げた。
- ・品種は関羽一本太・夏扇パワー、秀逸、ホワイトタイガーを供試した。
- ・貯蔵開始時のハウスの土壌水分は30%程度
- ・なお、24年度のデータは省略した。



貯蔵の状況(作溝伏せ込み)

- ・通常の定植と同様に深さ30cm程度の溝を掘り、ねぎを伏せこみ、葉鞘分岐部まで土を寄せる。
- ・べたがけ資材は、ねぎの上からかぶせる。